

## 病院及び介護保険施設における非常災害時等の食事提供に関する実態調査 結果概要

- 対象： 大阪府四條畷保健所管内の病院 10 施設及び介護保険施設 22 施設  
調査時期： 令和2年9月から10月  
方法： 〈調査票の配布〉 メールまたは郵送  
〈調査票の回収〉 メールまたは FAX  
回収数： 病院 10 施設(100%)  
介護保険施設 22 施設(100%)

### ○非常災害時の食事提供に関する備えの状況

- ① 非常災害時の食事提供に関するマニュアルを作成している施設は、病院で 10 施設(100%)、介護保険施設で 16 施設(73%)。
- ② 非常災害時の食事提供について検討する会議を開催している施設は、病院で 8 施設(80%)、介護保険施設で 8 施設(36%)。医療安全管理委員会、防災関係委員会、栄養・給食関係委員会において検討されており、病院で 6 施設、介護保険施設で 3 施設が定期開催であった。
- ③ 非常災害時の食事提供に関する研修・訓練を実施している施設は、病院で 10 施設(100%)、介護保険施設で 12 施設(55%)。内容は、病院、介護保険施設とも「備蓄食品の周知」が最も多く、次いで病院は「非常災害時食事提供マニュアルの説明」、介護保険施設は「非常災害時を想定した配膳」が多かった。
- ④ 水を備蓄している施設は、施設利用者分が、病院で 9 施設(90%)、介護保険施設で 19 施設(86%)、職員分が、病院で 7 施設(70%)、介護保険施設で 11 施設(50%)。備蓄量は、施設利用者分、職員分ともに、3 日分以上が最も多かった。
- ⑤ 施設利用者分の食料を備蓄している施設は、病院で 10 施設(100%)、介護保険施設で 19 施設(86%)。備蓄量は、3 日分以上が最も多く、施設利用者の特性に合わせた食種・食形態の食品を備蓄している施設は、病院で 6 施設、介護保険施設で 11 施設。
- ⑥ 職員分の食料を備蓄している施設は、病院、介護保険施設ともに水を備蓄している施設より少なく、病院で 6 施設(60%)、介護保険施設で 9 施設(41%)。備蓄量は、3 日分以上が最も多かった。
- ⑦ 非常災害用献立を作成している施設は、病院で 10 施設(100%)、介護保険施設で 16 施設(73%)。このうち、施設利用者の特性に合わせた食種、食形態の献立を作成している施設は、病院で 6 施設、介護保険施設で 7 施設。
- ⑧ 備蓄保管場所を施設全体で共有している施設は、病院で 9 施設(90%)、介護保険施設で 17 施設(77%)。
- ⑨ 期限の近づいた備蓄食品は、通常の食事に使用している施設が最も多く、次いで職員食に使用している施設が多かった。
- ⑩ 非常災害時の食事提供に関する外部との連携の取り決めがある施設は、病院で 9 施設(90%)、介護保険施設で 15 施設(68%)。連携先は、「系列施設」、「委託給食会社」の順に多く、「近隣施設」と回答した施設はなかった。連携内容は、「食品」が最も多く、次いで「人員」が多かった。
- ⑪ 非常災害時の食事提供体制における課題は、病院で「備蓄」「施設内での研修・訓練」、介護保険施設で「備蓄」が最も多かった。備蓄については、病態・アレルギー・食形態に応じた食品の準備や備蓄量、備蓄場所、職員食の備蓄等、研修・訓練については、施設全体での訓練が実施できていない、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できていない等であった。

### ○新型コロナウイルス感染拡大に伴う栄養管理業務及び給食管理業務の対応状況

- ① 新型コロナウイルス感染拡大に伴う栄養管理業務及び給食管理業務での対応あり(検討中含む)の施設は、病院で 10 施設(100%)、介護保険施設で 16 施設(20%)。対応内容は、「食器」が最も多く、ディスプレイ食器の使用や準備・備蓄等であった。
- ② 新型コロナウイルス感染拡大により栄養管理業務及び給食管理業務で困っていることは、施設内で感染者が出た場合の不安や感染対策による業務方法の見直し、利用者の食欲低下等であった。